

### 1 自己評価及び外部評価結果(1Fさくら)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672900293		
法人名	社会福祉法人 秀孝会		
事業所名	グループホーム 京都ひまわり園		
所在地	京都府八幡市八幡清水井20番地		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町村受理日	平成26年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigyosvoCd=2672900293-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigyosvoCd=2672900293-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成26年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム前は交通量の多い車道であるが、明るく光を取り入れられる共用空間、季節の花を植えた園庭、隣接には畑を擁して季節の作物を育て、収穫し食している。四季折々の行事を多く開催し、ご家族にもご参加いただけるようにして、日常の中の楽しみとご家族も含めた生活である事を少しでも感じ取っていただけるようにしている。開所早くから買物、調理とホーム内で利用者と共同して行っており、日々の買物も外出する機会や季節を感じる大事な活動になっている。基本的な生活日課はあるものの、入浴時間の制限等なく毎日入浴されたり、利用者の自己決定を促す素材を持っている。入居者が心から自分の家と思える場所「第二の我が家、第二の家族」を目指し、当たり前前の生活を明るく共にする事で、家庭的な雰囲気の中で生活していただけるように意識している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人「秀孝会」は、平成5年4月に八幡市の石清水八幡宮にほど近い地に特別養護老人ホームと在宅部門を設立し、爾来介護施設を増設して「総合老人福祉施設」として地域社会に貢献している。グループホーム京都ひまわり園は、平成16年5月に法人本部の前に、1・2階 2ユニットとして併設された。近中には、史跡や昔ながらの旧家が散在しのどかな雰囲気があるが、前を走る道路が坂道で交通量が多くスピードが出易く難点である。しかし、事業所の前庭は広く外気浴・日光浴・ティータイム・バーベキュー等を楽しむ「場」となっている。又、南側で日当たりも良く洗濯物の干場にもなっており、入居者と職員がおしゃべりしながら、洗濯物を干している光景も微笑ましく見られている。職員は、一人ひとりを大切に考え、その人の持つ能力を損ねない様に配慮しながら「やさしく見守る」姿勢で支援している。洗濯・買い物・掃除・食事など出来る事を、職員と一緒に考えて実行する事で生きがいを感じ自信を持つ機会としている。開設当時からお住まいの方もあり、102歳の方も穏やかな表情で過ごしておられる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(1Fさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所目標と同時に基本姿勢を策定している。法人ホームページや事業所のお便りにも掲載したり、理念は事務所、玄関に掲示しており周知に努めている。	社会福祉法人 秀孝会の基本理念は「照千一隅」(一隅を照らす) 一輝きをもち必要とされる人になろうーとして、「地域の中で人々の幸せを実現する為に貢献する」と表明している。事業所としては法人の理念に基づき「入居者が中心となり一人一人の思いを尊重し、より自分らしく安心した生活を送れる」支援を目標としている。職員は、日々の申し送り時等で目標に沿った支援が実行出来ているかを確認している。一人ひとりを大切に、その人の出来る事を見守っていく支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	自治会・老人会への加入は行っていないが、区会長の配慮で行事案内等の情報はいただいている。地域行事の敬老会や近隣保育園の運動会見学、食材購入に買物にも出掛け、ある一定の地域交流は継続している。	地域の情報は、区会長から得る事ができている。地域の敬老会への参加や近在の保育園児との交流等を行っている。事業所で収穫した「さつまいも」をおすそ分けすると、5歳児がおやつを手作りして皆で試食している写真と御礼状が届いている。日常的には、散歩や買い物時に近隣の住民と挨拶を交わしている。傍に併設されている、特養やケアハウスの住民等と合同でイベント(夏祭りなど)を行い交流の機会を持っている。看護学生や高校生の実習も受け持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域還元については法人全体で捉えている。市の介護保険関連の委嘱委員を管理者が行っている。地域貢献、交流の一つとして挙げいていた公園清掃の実施が今年度もできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	園の状況や家族会の内容報告なども行い、少しでも周知していただけるように努めている。地域行事予定の情報をいただいたり、助言を活用している。	会議には、行政・区長・民生・自治連合会・第三者委員(苦情対応)・家族・職員が出席し、状況報告や事業計画・外部評価結果の報告等も行っている。参加者との意見交換も活発に行われ、門扉施錠についてや避難訓練に関する事等の意見が出されている。施錠に関しては、すぐ前の道路は交通量が多く坂道でスピードを出している為、安全面を顧慮しなければならず、試行錯誤して検討を重ねている所である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ適宜連絡、訪問している。市町村担当者には、運営等に関してなど、相談・助言をいただくようにしている。	八幡市の担当職員が、運営推進会議に出席している事から、日常的な事業所の状況を把握し、理解して貰っている。従って、随時必要に応じて報告したり、相談してアドバイスが得られる様な協力関係が出来ている。	

京都府 グループホーム 京都ひまわり園（1Fさくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について、法人として意識統一している。施錠をしないケアが当ホームの方針であったが、スタッフ把握のない状況でご利用者が園外に出られる事もあり、門扉や玄関を適宜施錠、センサーチャイムの活用で危険回避に努めている。	「身体拘束をしないケアの実践」に関しては、法人全体で取り組んでいる。年間計画に組み込んでの研修と共に、職員会議や申し送り等でも職員で話し合う機会を持っている。現在は、門扉や玄関ドアの施錠について、試行錯誤しながら検討している。その他、行動や思いを抑制する様な言葉使い・声掛け等に留意したり、居室のドアの開閉にも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止と並行して、法人として勉強会等を開催し、学ぶ機会を持っている。虐待が見過ごされないよう、皮下出血等の現状申し送りなど行い、職員間で注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や外部研修など、学ぶ機会は持てるようになっているが、参加が十分でないのが現状である。職員異動も多くあり、知識の浸透には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・改定時には書面にて説明を行い、同意・署名・押印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会のご家族代表、日々のご面会時に伺う事が多い。年間行事の多くにご家族様にもご参加いただき、家族会を開催して秘匿性を確保しながらご意見を出していただき易い機会を設けている。	利用者の意見の聞き取りは、困難な事から日常的な会話や表情から職員が汲取っている。家族等からの意見は、運営推進会議時や来所時に状況報告を行い意見を伺える機会としている。必要に応じては、電話やメール等でも意見を聞き取っている。運営に関する意見は少なく、個人的な支援に係る事が多いが、職員紹介の希望が出たので、「お便り」に写真入りで紹介する事にして喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催するスタッフ会議にて、課題や意見等を収集するようにしている。また、個別に声をかけるように努め、意見の収集に反映させている。	月一回実施しているスタッフ会議や日常的な業務の中での会話から、職員の意見を聞き取っている。人員配置やテレビの買い替えの提案があり、検討して改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同一事業部にて定期開催している安全衛生委員会が、整備の一翼となっている。管理者が個々に、現状の課題や期待値など、全職員には至っていないが話す機会を持つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、新任・現任研修や勉強会の開催、外部研修への参加など、スキルアップに努めている。勉強会参加は、年度後半になって少しずつ人数増加してきた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度より、京都府老人福祉施設協議会に新設されたグループホーム部会に加盟した。小規模多機能部会とも連携しており、今後、より連携強化に繋がっていく予定である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を含め、ご本人やご家族に協力していただき、できるだけ多くの情報をいただくよう努めている。特に初期段階では関わりを多く持ち、馴染みの居室作りをご家族にも行っていただくようお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の情報収集と併用して行い、家族関係など提供いただく情報を活用している。ご入所が決まり、一先ずご安心されるご家族は多い。ケアプラン作成の為に、ご家族としてのご意向をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階では事前情報と異なる事もある。資料のみでなく、ご本人やご家族の置かれている状況を勘案し、対応をスタッフ間で協議し提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	持ちつ持たれつの関係が持てるよう、掃除、洗濯、家事等を代表とした生活事業を一緒に行う事で関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご来訪時、特に生活状況など共有していただけるよう報告に努めている。遠方のご家族にはメールで状況報告を行ったり、出来る範囲で手紙の投函を支援したり、関係継続を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室はできるだけ今まで使用されていた家具等持参していただき、少しでも安心できる空間作りになるようご家族にもご協力をお願いしている。通い慣れた病院通院の継続や、友人・知人のご来訪もある。	たまにはあるが、友人や知人の来所があればゆっくり過ごしやすい様に飲み物を出して配慮している。遠方の家族には、メール機能を利用して写真を添付して状況を知らせたり、双方向での交流が出来る様に工夫している。又、家族と手紙のやり取りの支援も行っている。馴染みの美容院が利用できる様に配慮して継続できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方と一緒に過ごせるようソファを配置したり、食事時のテーブル席に配慮したりしている。疎通の援助を行ったり共に誕生日を祝うなど関わりが持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の多くに長期入院、死亡などあるが、状態変化に伴う退去が多く、生活状況等の情報提供を適宜行うなどして相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中での言動を汲み取れるよう傾聴に努めている。ご本人からの聴取が困難な場合は、ご家族に伺う部分もある。	利用前の面接で、本人・家族等から心身の状況や趣向・思い等を聞き取り、アセスメントシートを作成している。入居後は、職員との関わりの中で、新たな希望や意向を汲み取っている。聞き取った「思い」は、職員で共有し、介護計画に反映させる様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入所時やご家族の面会時など、随時情報収集し、ご利用者ごとの個人ファイルに保管し共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録に記載し、特記事項は情報把握がしやすいように、日誌記載などしている。ただ、まだまだ記録力や伝達力に課題があり、十分な引継ぎや情報共有への改善は必要である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が統括して行いが、ご本人やご家族の意向を聴取しながら、介護職も原案作成に携わり、共同して計画作成に努めている。	日々の介護支援記録を、一ヶ月毎に纏めてモニタリングに繋げている。その結果を基に、介護職が介護計画の原案を作成し、計画作成担当者が確認している。作成に当たっては、家族の意見を聴取し、医療面では定期受診時に情報を得て反映させている。計画の見直しは、必要に応じて対応しているが、特に変化が無ければ、更新時や6か月を目安にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援状況を記録し、定期的にモニタリングを行い、必要に応じた計画作成の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方や就労など、ご家族の状況に応じてできる範囲で買物や定期受診などの付添いを柔軟に対応している。法人機能として有する専門職の助言を受けたり、ボランティアの活用など行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方から地域行事の情報をいただいたり、ボランティアの行事参加や傾聴活動の受入を行い、資源を活用している。移動図書館の利用や、福祉用具の貸与を受けて自立支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は馴染みの医療機関への受診を継続される事が多い。ご家族の通院同行や送迎が困難な場合には、可能な範囲で協力しており、所見等の情報は、電話やメール等で申し伝えている。	かかりつけ医の選択は、本人・家族等の希望に沿っている。定期受診は基本的には、家族等の付添いに行っているが、事情によっては職員が同行する場合もある。現在1名の入居者はかかりつけ医の往診を利用しているが、診療ノートを活用して、情報交換を行っている。必要に応じて、医療機関と事業所とで情報交換を行い、適切な健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置は行っていない。健康面での情報は、定期受診や往診時に主治医に情報提供ができるように、文章にしたり付添いのご家族へお伝えしたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報交換ができるように、フェイスシートや看護サマリー等の情報提供書の交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの方針は経口摂取ができず、痛みを伴う終末期の看取りは対処できないと定め、ご入所時にご家族には説明をしている。重度化に伴いホームでの生活が困難になりつつある場合には、特養等への安全な生活が受けられる場所への転居など、ご家族と相談している。	事業所の方針は、契約時に説明している。医療処置が伴う終末期は病院へ、事業所での支援が困難になってきた場合には、特養等への転居を検討している。あくまでも、本人の安心・安全を第一として、家族等・医療関係者・事業所で充分話し合っ適切な支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急・事故発生時の対応マニュアルは整備している。法人勉強会でAED使用訓練など、少数ではあるが、一定の訓練に参加している。管理者への速やかな報告と共に、対応指示を受けて日々の実践に繋げている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の連絡場所の増設として、警備会社との連携を強化した。事業所での地域連携は図れていないが、隣接の法人施設との協力体制は整備されている。夏に8時間に及ぶ停電があり、整備していた発電機を使用し難を逃れた。	消防署職員の立ち会いのもと、消火・避難訓練を昼夜想定で実施している。停電時対応として、自家発電機を備えているが、今夏長時間に及ぶ停電があり活用する事ができた。近隣地域住民との連携体制はないが、道路を挟んで併設施設があり、互いに協力体制を確保している。備蓄に関しても、連携体制が出来ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴におけるケアや言葉かけには気を配っている。居室等、プライベート空間のマナーとして、ノックをするなど配慮している。	年間研修計画に基づき、認知症ケアについてやプライバシーに関する研修を行い、職員に周知させている。排泄支援時や入浴支援時の声掛け・誘導等に、不快感や羞恥心を抱かせない様に配慮している。「一人ひとりの思いを大切に」を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事業所の基本姿勢として挙げており、職員本位にならないように、ゆっくり待つよう努めている。具体的な内容として、食の聞き取りや衣類洗濯など。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員人数の減少などから、以前に比べゆったりとした時間の確保が難しい。ホームの意義を振返る事で、寄り添える時間を大切にしているが、ご希望の外出には添えていない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択可能な方には、好みの衣類を選んでいただいたり、美容・理髪等、外出支援をしている。選択困難な方には、嗜好情報などを基に支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットごとで献立立案をして、地域スーパーや移動販売野菜を購入し、個々の能力に応じて切り・盛り付け・下膳や食器洗いを一緒に行っている。	入居者と共に、メニューを考えて「入居者と共に食事を楽しむ」を目標の一つにしている。「移動販売野菜」の車が来た時は、季節の旬の野菜や果物を選んで楽しんでいる。近隣のスーパーへ食材を買いに行ったり、下ごしらえや盛り付け等も職員と共にしている。職員はその人の「力」に応じた役割を見守っている。真剣な表情で「味噌汁」を碗に入れている入居者の姿があった。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	多品目を目指し、摂取・水分量など記録し共有する事で、少ない方には捕食等、嚥下状態によってはとろみ剤の使用など、状況に応じて対応している。定期的に体重測定を行い、一定の栄養指標としている。			

京都府 グループホーム 京都ひまわり園（1Fさくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや誘導、介助にて、各自居室でうがいや歯磨きを行っている。定期的に歯科衛生士の口腔ケアを訪問にて受けておられる方もいて、助言をいただき口腔運動を実施している方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、適切な援助ができるように時系列で記録をしている。時間帯によってオムツ種類を使い分け、心理的・経済的にも負担軽減を目指している。可能な限り、トイレでの排泄を目指してトイレ誘導を支援している。	トイレでの排泄を目標として、排泄チェック表を活用し、其々の排泄パターンを把握している。個々人の状況に応じて、声掛け・誘導を行って失敗の無い様に支援している。布パンツにパットを利用したり、夜間のみパットを利用する場合等個人によって適切な対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の促しや毎日のラジオ体操の習慣など、予防に資するよう努めてはいる。ただ、昨年に引き続き下剤調整が必要な方は多い状況である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には毎日声かけし、入浴していただいている。なかなか入っていただけない方には、ご家族の協力もいただきながら、清潔を保つ支援をしている。	毎日の入浴を基本としているが、その日の体調や機嫌を配慮しながら入浴支援を行っている。入浴が楽しい時間になる様に、職員との会話を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内温度や寝具調整、不安への傾聴など行い、安眠への支援をしている。ご本人の能力に応じて、湯たんぽなど暖の使用を援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後、処方される薬剤と共に提供のある、薬情報をファイル化しており、薬効や副作用などの情報共有に努めている。必要に応じ、主治医や調剤薬局への問合せを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合せ、家事や晩酌などの嗜好継続をしていただいている。行事や買物等での外出、ご家族へのご連絡などで、楽しみや気分転換の支援をしている。		



京都府 グループホーム 京都ひまわり園 (1Fさくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は行えていない。屋内ケアの充実が現状である事と、加齢による重度化からも園庭での日光浴、食材購入での買物外出が主になっている。	現状では、日常的な散歩等の外出としては出来ていないが、天気の良い暖かい日には、広い前庭で外気浴や日光浴を行っている。又、前庭は職員と一緒に洗濯物を干したり、ティータイムやバーベキューを楽しむ場ともなっている。年間行事としての外出も大切に考え、城南宮への初詣や弁当持参での花見・近在の保育園の運動会で応援したりと四季折々の行事を楽しんでいる。時には家族の参加もあり、思い出作りになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、管理困難な方ばかりであり、ご本人が出納をする機会がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方がおり、混乱がないように、またご家族の負担にならないよう支援している。また、遠方のご家族に手紙を出す支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある物を飾ったり、カレンダーをかけている。居間はガラス面が多く明るくなっており、オープンキッチンのあるリビングで囲らんされている。敷地内には、花が植えられたり、行事などではご利用者に生花をしていただき、花を飾っている。	事業所内は、全体にゆったりとした雰囲気があり、リビングは大きな窓から外の景色が眺められ明るくて落ち着ける場所になっている。キッチンからは調理器具の触れ合う音や煮炊きの匂いが漂い、生活感がある。五段飾りのお雛様や季節の花が活けられて季節感にも配慮されている。ソファでのおんびり寝転んだり、気の合った人同士でおしゃべりをしたり、其々が好みのスタイルで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置する事で、新聞を読んだりテレビを見たりしてくつろげるようにしている。庭には、ベンチの設置をして、気の合った方々で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台と空調、広い収納空間がある。ベット、畳敷きに布団と部屋の改造は可能である。使い慣れた家具や衣服をご本人とご家族で準備していただいている。	居室はゆったりとした空間があり、窓も大きくて明るい。好みに合ったダンスやテレビ等、思い思いの持ち物を配置して、その人らしい部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段、エレベーターの使用なども、ご本人の能力に応じて実践し慣れていただく事で、より安全な手段で行き来するなど自立していただいている。表示、表札など設置する事で、理解しやすい目印の工夫を行っている。		